

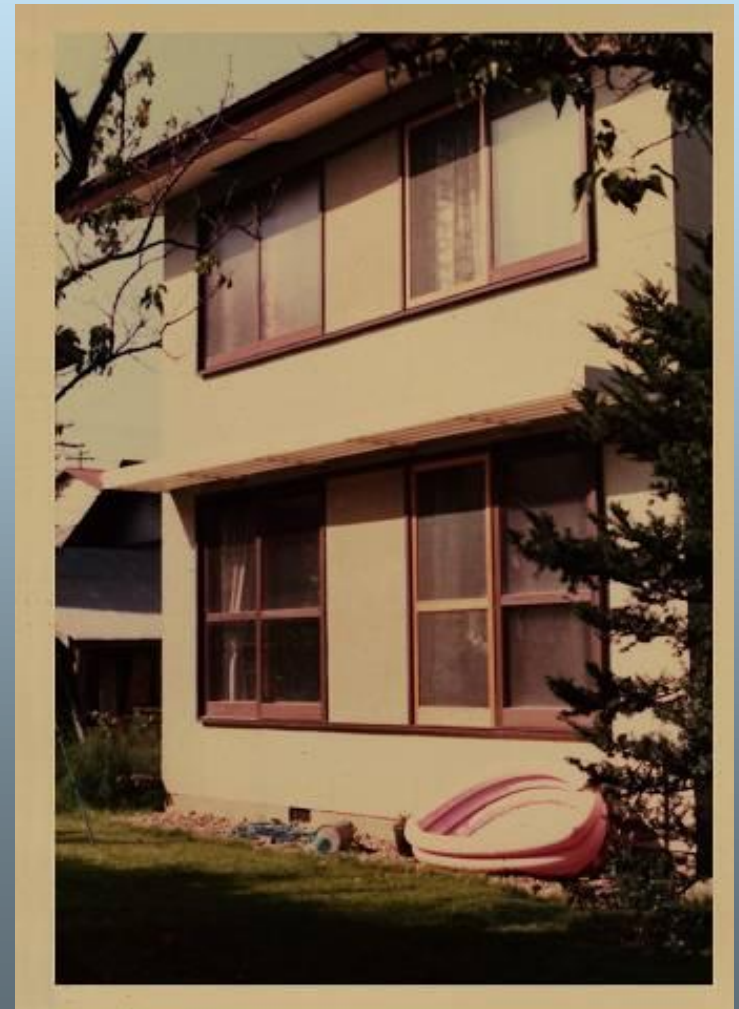
積雪寒冷地における建築環境に基づいた断熱気密 技術、住生活の啓発活動に関する業績

冬対応と夏対応を求めた次の二つの試験住宅（自宅）の成果を通して、断熱・気密化技術の効果と有用性を地域に発信してきた。

1 冬対応の試験住宅1969年

雪と寒さの克服を求めて木造2階建、述べ床面積約120㎡ グラスウール100mm・温水暖房試験住宅を札幌市琴似町に建設。

断熱から生まれる環境の穏やかさ（採暖と暖房の違い）を体験して、その成果を地域に発信し、雪と寒さは地域の欠点ではなくむしろ財産であることを訴えてきた。



2 夏対応の試験住宅1979年

続いて地域の良さである夏の涼しさをより顕著にする目的でコンクリートブロック造外断熱250mm・温水暖房、述べ床面積約322m²（3世帯・3世代8人家族）の試験住宅を札幌市手稲町に建設。

本州の夏対応の伝統技術に学び、上方開放型熱対流換気の効果確認などの成果を生かし、地域性に根差した住まいと自然エネルギー利用の啓発活動を展開してきた。



3 啓発図書の刊行

1980年代より、北海道における地域シンポジウムを道内各地で開催し、地域リーダーの育成を図ると共に、北海道建築指導センターより“採暖と暖房”他の小冊子を発刊して啓発活動を行い、その集積として“住まいから寒さ暑さを取り除く”（彰国社）を出版